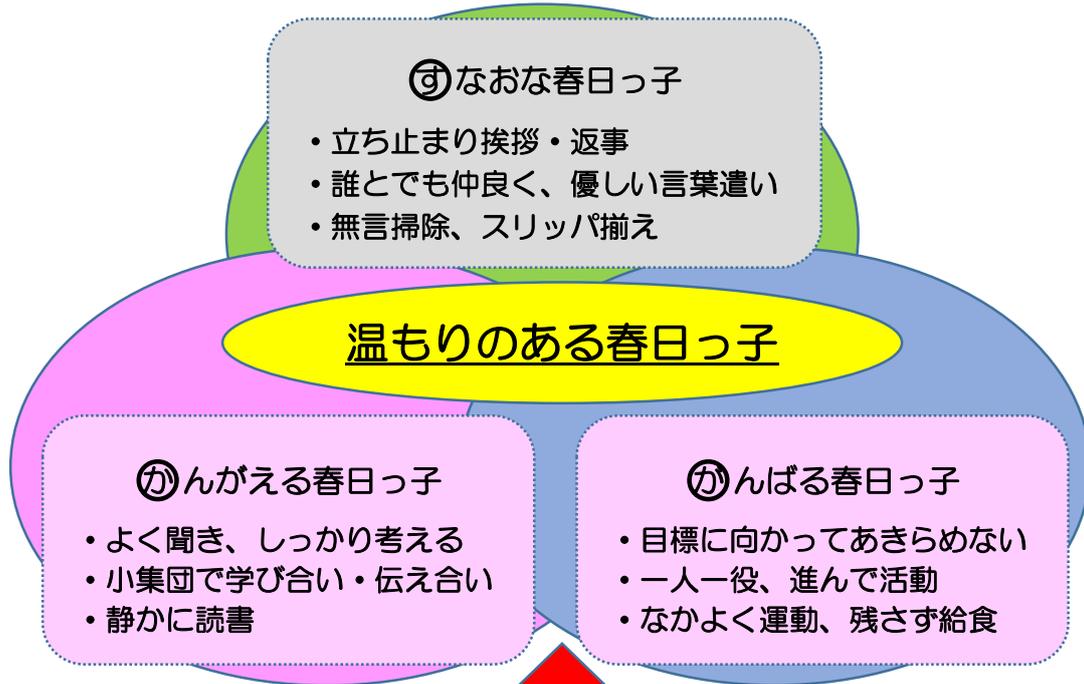


平成 3 1 (令和元) 年度教育課程について (届出)

1 学校の教育目標

自分から **か**んがえ **す**なおに **か**んばる 春日っ子の育成～温もり～



すべての春日っ子が安全に、安心して生き生きと活動する温もりのある学校

《3つの教師像》～まなび～「チーム春日」「継続と徹底」

- ① 目標と課題を共有し、共通実践に基づいた教育活動を展開する教師
- ② 「啐啄同時」の精神で春日っ子を見守り、褒め、励ます教師
～即日対応～
- ③ 「教育のプロ」としての自覚と誇りを持ち、授業で勝負する教師
～「できる・わかる・参加する」授業づくり～

《家庭との連携》 ～しつけ～ 早寝早起き、家庭学習、手伝い等

《地域との連携》 ～育てる～ 地域の教育力、見守り、地域への参画等

家庭 (保護者) で「しつけ」、学校 で「学び」、地域 で「育てる」

2 本校の教育の

か ながえる子

- ・よく聞き、しっかり考える
- ・小集団の学び合い・伝え合い
- ・静かに読書

す なおな子

- ・立ち止まり挨拶・返事
- ・誰とでも仲良く、優しい言葉遣い
- ・無言掃除・スリッパ揃え

が んばる子

- ・目標に向かってあきらめない
- ・一人一役、進んで活動
- ・なかよく運動、残さず給食

基礎学力の定着と教育活動の充実を図る

- 学習の始めと終わりや集会の始めに一斉に「立腰」を行い、物事に集中する心と正しい姿勢を身に付けさせる。
- スキルタイムを充実させ、基本的な学習訓練を行い、学習習慣を身に付けさせる。
- 国語科の授業研究を全教職員で取り組み、全校で共通した授業の構造化に努め、分かりやすい授業を展開し、学力の向上をめざす。
- 家庭学習の充実のために、年5回の「春日っ子ふりかえり表」を活用した振り返り週間を設定し、結果を集計、保護者や児童に改善点を示す。
- 読書活動を充実させ、児童の情操面を耕し豊かにするとともに、読書から得る知識を増やす。

互いに思いやりの心を通わせ、温もりのある学校づくりをめざす

- 道徳の時間と各教科・特別活動・総合的な学習の時間との連携を図りながら、指導内容の充実・改善を図る。
- 毎月の生活のめあての徹底を図り、節度ある生活態度の定着に資する。
- 生徒指導協議会・教育相談会で情報交換し、児童理解を深め、個々のよさを認め合う学級づくりの充実に生かす。

地域の教材化や体験活動を取り入れ、郷土を愛する心を育む

- 様々な地域の「ひと」「もの」「こと」と出会い、体験し、関わる活動を充実させ地域学習を進める。
- 児童の育ちと学びを保障するために、児童の情報を交換しながら就学前・小学校・中学校間の連携を促進する。
- 地域との連携を密にし、地域の特性（人物・歴史・自然・文化等）を活かした体験活動を取り入れ、郷土を愛する心を育む。
- 交流活動や体験活動を通し、自ら学び、豊かな人間性や社会性、たくましい実践力を持ち、心身共に健やかな児童を育てる。

開かれた学校を目指し、信頼される学校づくりを進める

- 学校教育目標に基づいて学校経営案を作成し、保護者に学校ホームページで公開する。
- 授業参観、学校行事等の教育活動や児童の様子を学校ホームページ等で公開し、学校への評価を今後の運営に生かす。
- 月に1度の学年主任会や学期毎の職員アンケート、学期末の運営委員会を通し、実際に教育課程を運用した上での反省をもとに常に、改善を加えながら学校づくりを行う。

3 教育計画

(1) 本年度の教育の重点

できる・わかる・参加する授業づくりに努め、よく聞き、しっかり考える児童の育成を目指す。

- 基本的な学習習慣や学習規律を身に付けさせるとともに、「子どもが輝く春日っ子授業スタイル」を共通理解して、教材・指導法の研究を深め、わかる授業の実践に努め、学習意欲を喚起し、学力向上を目指す。【①課題把握 ②自力解決 ③学び合い（小集団活動、全体活動）④ふりかえり】
- 全校朝の読書タイム（読書）を週1回実施し、読書習慣を身につけさせるとともに読書で疑似体験をしたり知識を増やしたりする。また、図書館司書と担任とが協力して、たくさんの本に親しむようにする。
- 火曜日の朝を算数科、金曜日の朝を国語科スキルタイムとし、15分間を3分割しテンポよく声を出してフラッシュカードの問題や音読に取り組む。朝一番にリズムよく楽しく声を出して活動することで脳を活性化させ学習の心構えを付けさせる。
また、スキルタイムの充実のためのフラッシュカードやワークシートを集約・一括管理・共有財産化し、活用しやすくする。
- 児童一人一人が学習中に「言葉で自分の思いや考えを表現する力の育成」「発表を聞いての助言や称賛できる雰囲気づくり」に力を入れる。
また、話し合い活動により思考力を高めたり、児童の自尊感情を高めたりすることで、授業の活性化を図り、学力向上をめざす。
- 土曜授業等を利用し、各学級5～6分の音読や朗読、合唱などみんなで声を出し一つの作品を作り上げる活動の成果を全校の前で発表する。声を出して表現する楽しさを味わうと共にスキルタイムの意欲を持続させる。

優しい言葉遣いで誰とでも仲よくできる、温もりのある学級・学校づくりを目指す。

- 児童理解に努め、きめ細かな指導に資するよう生徒指導協議会・教育相談会で情報交換を行い個々のよさを認め合う学級経営の充実に生かす。
教育相談会の初めの時間を個別の支援計画を記入する時間にあてる。（担任だけでなく級外も含めて気になる子、支援の必要な子の継続的な指導に資する）
- 生徒指導、教育相談、特別支援教育について、全教職員の共通理解に基づく教育活動を展開していく。学校の生活習慣では、「立ち止まりあいさつ、やさしい言葉遣い、無言そうじ」「進んで活動、なかよく運動、残さず給食」を重点項目とする。
- 毎月「第2木曜日」を「いじめ・いのちを考える日」とし、内容に応じて全校放送や集会を行い、児童の温もりの心を培う。
- 毎月「第3木曜日」と「第4木曜日」を「なかよしタイム」とし、縦割り班遊びを通して、友達づくりなど温もりの心を体感させる。

家庭・地域との連携を図り、安全に安心して生き生きと活動できる学校づくりを目指す。

- 学校経営方針を作成し、PTA総会・学校HP等で保護者に説明し、協力・理解を得る。
また、家庭や地域への学校だより『啾啄同時～温もり～』を発行する。
- 学校・学年行事等の教育活動の状況や児童の様子を学校だよりや学校HP等で知らせ、学校への興味・関心を高めるとともに、学校評価による改善を明確化させる。
- 保護者・地域と協力したボランティア活動（あいさつ運動やアルミ缶回収）を展開する。
- 「春日っ子振り返り表」に取り組み、家庭での学習や生活習慣の向上を目指す。「朝ご飯」「テレビ・ゲーム」「家庭学習」「お手伝い」「睡眠」等で子どもの学習や生活を振り返らせ、その結果を学校・学年・学級たより等で保護者に報告し、学校、家庭、地域との共通理解を図りながら学習や生活習慣の確立に向けて連携・協力を行う。

(2) 佐賀市の特色ある取組について

1 幼保小中連携の取組

(1) 幼保小連携

① 幼保小連携会議の実施

○年度当初と年度末の2回、本校と春日保育園の職員が園児の実態等について話し合う。なお、本校入学園児の多い、ロザリオ幼稚園並びに保育園ひなた村自然塾とも必要に応じて情報交換を行う。

○相互授業参観（小学校からの夏休みの園訪問、幼・保からの「こどもの教育を考える日」の参観）を実施。

② ソフトプログラム「わくわく」の活用

○幼稚園・保育園から小学校へ円滑な移行ができるように、研究・研修を行い活用する。

③ 新入学児童の学校体験

校区内の春日保育園児を対象に小学校の雰囲気味わわせることを目的として行う。

○1・2年生と春日保育園園児との交流活動を計画・実践する。

○事前に気になる子の情報交換を行い、交流活動中の参観を通して実態把握に努める。

(2) 小中連携教育

① 各種部会の活用

○大和中校区小中連携研究会で、生徒指導・教育相談、特別支援教育、校内研究、人権・同和教育の4部会に分かれ、四小中学校間の指導や生活などの段差を埋め、中1ギャップ解消をめざす。（必要に応じ適宜開催）

○小6担任と中学校職員とで気になる子の情報交換を行い、学級編制の際の参考とする。

② 相互授業参観の実施

○相互授業参観を行い、児童の成長を見守ると同時に、児童のそれぞれの段階に於ける指導方法について理解を深め、日常の指導に活かす。

③ 体験入学等の実施

○夏季休業中に大和中学校で体験入学を行い、授業や部活動を体験することで、中学校生活に希望を持たせたり中学校の先生と関わりを持たせたりする。

○大和中の生徒が本校を訪れ6年生対象の「ようこそ先輩」を行う。中学校生活のプレゼンテーションや質疑を通して中学校生活に希望を持たせたり不安を取り除いたりする。

(3) 小小連携の実施

体験入学の際に、校区内の小学校（本校、春日北小、川上小）で小学校相互の交流活動を行い、進学後の人間関係を円滑にする。

(4) その他の連携活動の実施

6年生には、春休み中に3校共通の問題集を準備し、基礎学力の補充を行う。

2 「いじめ・いのちを考える日」の取組

(1) アンケートの活用

毎月末に学校生活アンケート「すっきりニコニコアンケート」を実施し、結果を学級経営・生徒指導・教育相談に活用し連絡会等で情報を共有する。（いじめ・対人関係・気になる子）

(2) 集会での取組

年間計画を立て、毎月第2木曜日の朝の時間をいじめやいのちについて全校で考える場とする。集会の担当を学年担任の輪番制とし、児童が様々な価値に触れることができる様にする。また、内容によっては1校時目の道徳の時間と併せて60分間で行う。

(3) 日常生活での取組

①「いじめ・いのちを考える日」の取組と関連させ、外部講師を活用しながら人権教室を実施する。

②命の大切さや仲のよい友だち関係を構築していくことについて道徳や学級活動で取り上げる。

(4) 家庭や地域との連携

学校ホームページに取組の様子を掲載し、家庭や地域と連携を図る。

3 市民性をはぐくむ取組

春日校区まちづくり協議会の一つの「子ども育成部会」では、地域の大人が子どもたちの育成に係わっていかうという取組が計画されている。そのこども育成部会や民生児童委員会などと連携しながら、地域の方をゲストティーチャーとし、地域連携担当者（主幹教諭）のコーディネートのもと、「ひと」「もの」「こと」との出会いの場を設定し取り組む。また、キャリア教育と「総合的な学習の時間（はばたき）」の取組を関連づけ、教育活動全体を通し市民性を育む。

(1) 行事や活動での取組

- ①春日っ子ワクワク祭りや秋の遠足のような学校の枠を離れ保護者や地域の方々、見学先で出会う方々との関わりを通して社会の一員であることの自覚を促す。
- ②ゲストティーチャーとして、地域の教育力を授業や行事に積極的に活用し交流を図る。

(2) 活動について

- ① 各学年の活動（各学年担任）
 - 全学年：交通安全指導【警察官や交通安全指導員】昔遊び体験【民生・児童委員】
 - 1年生活：畑を借りて野菜づくり【地域の高齢者】
 - 2年生活：町探検【商店・役場・交番等の公共施設】畑を借りて野菜作り【高志館高校】
 - 3年総合：大和太鼓【大和太鼓指導者】，肥前国庁跡見学【市文化振興課】
社会：昔の人々のくらしを知ろう【春日民生委員・老人会・博物館学芸員】
スーパーマーケット見学【マックスバリュー】，学校の周り見学
道徳：思春期教室【助産師】
 - 4年社会：水ものがたり館，環境センター，佐賀城の見学（ふるさと支援事業を活用）
総合：ロザリオの園訪問
 - 5年総合：キッズマート【春日っ子ワクワク祭りの模擬店・イベント店にキッズマートで参加する】
6年生に向かって【6年生・下級生・地域の人へ】
 - 6年社会：吉野ヶ里遺跡歴史公園見学，大隈重信記念館・佐野常民記念館・三重津海軍所跡・県立博物館等を見学（ふるさと支援事業を活用）
- ② 日常の自主的な行動
 - 自分にできることは何かを考えさせ，地域や社会に発信する。
 - 校内美化委員会による日常の美化活動等に取り組ませる。
- ③ 役割と責任の自覚の場
 - 意図的に社会の一員であることを意識できる場を設定する。
 - 4年総合：1／2成人式を開く。
- ④ それぞれの活動を行う際には，児童が企画できる場を設定し主体的な活動を促す。

4 「土曜授業」の取組

(1) 実施日

佐賀市一斉に6月，7月，9月，10月，12月の第1土曜日，5日間を土曜授業の日として午前中4時間，年間20時間の授業を行う。

6月，9月，10月は3時間を1.5時間ずつに分けて2学年ずつPTA親子ふれあい学級の時間とする。

7月は子どもの教育を考える日～佐賀市一斉フリー参観デー～として地域に向けて，授業の様子等を公開する。

(2) 内容

土曜授業の基本方針を受け，年間20時間を本校の課題である「(2) 学力向上」並びに「(7) 平日の時間割の見直し」に重点を置き，学力と温もりの心を持った児童の育成を目指す。学力向上では，補充・発展の学習はもとより，6月・7月には朝の時間と1校時目をあわせた60分間を使い全校集会（あじさい集会・七夕集会）で，1学級5分から7分程度の音読・朗読・合唱等の発表を行い，声を出し表現することの楽しさを味わわせたい。また，他の学級の発表を見ることで，発表者を温かく見守る心や自身の学習や表現方法について振り返る機会としたい。